

KAS

風の谷

びゅう

VIEW

社会福祉法人 風の谷
 相模原市中央区田名7236-3
 発行責任者 政野 光廣
 042-760-1033
<http://www.kanagawa-id.org/yamabiko/>
 e-mail: ykoubou@pastel.ocn.ne.jp



★ 地域交流バザー2010 大特集号!! ★

【2010年 夏号】

◇巻頭文	P 2	◇自閉症支援センター	P 3
◇特集：地域交流バザー	P 4、P 5	◇自閉症について（中学生職場体験）	P 6
◇短期入所事業「赤い屋根」	P 7	◇後援会	P 8

発行人 神奈川県自閉症児・者親の会連合会 代表者 内田照雄 〒243-0035 厚木市愛甲 910-1 コーポ野村 6-109

毎月15日発行 購読料1部 50円

障害者制度改革の行方

サッカーのワールドカップ南アフリカ大会における日本代表チームの活躍に、日本中が熱狂した余韻のいまだ冷めやらぬこの頃であります。そうした話題の一方で、我が国の障害者制度改革に向けての本格的な議論が障害当事者とその関係者を中心に活発に行われています。

皆様ご案内の通り、昨年 of 民主党政権誕生に伴い、厚生労働大臣に就任した長妻氏は、就任後直ちに障害者自立支援法の廃止を明言しました。その理由として、障害当事者の意見に真摯に耳を傾けることなく原則一割の応益負担を課し、拙速に作られた制度であることを挙げています。

そして「障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備を始めとする我が国の障害者に係る制度の集中的な改革（当面5年間）を行なうため」内閣に設置された「障がい者制度改革推進本部（本部長＝内閣総理大臣）」の下に障害当事者を中心に関係者や有識者で構成される「障がい者制度改革推進会議（構成員24名）」が設けられ、障害者制度改革の推進のための基本的な方向について議論が進められています。本年一月から今日（7/15）まで、すでに16回開催され、6月には第一次意見（制度改革の基本的方向）が取りまとめられています。推進会議では今後第二次意見（制度改革の重要方針）を年内に取りまとめ、来年（平成23年）には障害者基本法抜本改正・制度改革の推進体制等に関する法案の提出を目指すことになるようです。

また、本年4月には「障がい者制度改革推進会議」の下に「総合福祉部会（構成員55名）」が設置され、「障害者に係る総合的な福祉法制の制定に向けた検討（障害者自立支援法をめぐる論点に関する検討を含む。）を効果的に行うため」の議論が始まっています。この総合福祉部会の構成員には、複数の知的当事者を始め、知的・発達障害の子を持つ親、それと支援者、研究者など、知的・発達障害の領域に関心の高い人が何人も入っていることに心強さを感じています。

去る6月22日に開催された第4回総合福祉部会では「障がい者総合福祉法（仮称）の論点表（たたき台）」が資料として示されました。この論点表の「C支給決定」分野の論点に、【「本人が必要とする支援を受けた自己選択、自己決定の尊重」を実現していくためには、どのような支援が必要か？また「セルフマネジメント」「支援を得ながらの自己決定」についてどう考えるか？】との記述があり、私はこの論点に注目したいと考えました。というのも、私たちが日々支援している自閉症を伴う利用者の人たちは、「自己選択、自己決定」に大きな困難があり、まさに「支援を得ながらの自己決定」が必要な人たちだと実感するからです。

実は、「自己選択、自己決定」の可能な障害当事者を中心に、「セルフマネジメント」を前提として制度改革の議論が進むのではないかと危惧を抱いていたのですが、この論点が明確に示されたことで今後の議論に期待が持てると感じています。この論点の意味するところをしっかりと勉強して「本人が必要とする支援を受けた自己選択、自己決定の尊重」を実現していくために必要な支援とはどのようなものか、多くの仲間と議論し、その内容を整理して、政策提言につなげるような動きをとっていきたいと考えています。

今後は、基本的にこの論点表（修正を加えて）に沿って議論が進められていくこととなりますので、「障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会」を引き続き注視したいと思います。

さて、一方、政令指定都市となったわが相模原市では、「発達障害者の各ライフステージに対応する一貫した支援体制の整備について検討するため」として『相模原市発達障害者支援体制整備検討委員会』が設置されました。私も風の谷の理事として委員に加わっています。昨年 of 10月に第一回目の会議が開かれ、本年 of 9月まで計7回にわたり、発達障害者支援センターの在り方等について検討する予定です。限られた回数ですがしっかり参加して、発達障害当事者の方に必要な支援体制の整備に結びつけていきたいと思ひます。

ところで、つい先日（7/11）の参議院選挙で与党民主党が敗北し、衆参で「ねじれ現象」になることが明らかとなりました。こうした政情の不安定さが、現在取り組まれている障害者制度改革にどのような影響を与えるのか、よくわかりませんが、「根本」を議論するはずが「混沌」としないうように祈りたい思ひであります。

どうぞ今後とも更なるご支援とご協力のほどお願い申し上げます。

施設長 中島博幸

「相模原自閉症支援センター」便り



2010年4月に相模原市がとうとう政令指定都市に移行いたしました。県内に政令指定都市が3つもあるという、ある種異様な感じもありますが、相模原市が新たな一歩を踏み出したことには変わりないようです。そのような中で、社会福祉法人風の谷も、それに合わせる様にやまびこ工房増設と短期入所棟「赤い屋根」の新規開設を迎えました。この増設には1997年に相模原市で法人を立ち上げた当初の想いが詰まっており、当法人の目的である「自閉症を伴う利用者一人ひとりが自らの意思決定に基づき、さらには個人の尊厳を保持しつつ、地域社会において自立した生活を営むことが出来るように支援すること。その為の支援を、総合的に提供し続けられるような創意工夫、努力を惜しまないこと。」をこの相模原市で新たに体現していく大きな一歩だと思えます。

同じ神奈川県でしかも政令指定都市としての先輩でもある横浜の「横浜やまびこの里」も20年という節目の時を迎えています。言わずもがなですが、自閉症施設として大きな成果を挙げてきた法人です。その「横浜やまびこの里」もお手本にしてきた、自閉症児者の地域参加支援の本家本元である、TEACCHプログラムでさえも、時代の流れのなかで、平穏安泰とは行かない様子です。文化も風土も違うところでの話ですし、直接聞いた話ではないので軽々しくは言えませんが、これも自閉症支援の本質ではなくて、政治、行政、権威といったものに振り回されている感がありました。こんな今だからこそ、自閉症をもっと勉強し直さなくてはいけない気持ちになっています。

以前行った研修会でTEACCH部のメジボフ氏はTEACCHの哲学、コアバリューを「1. 自閉症を理解すること。2. 強い倫理観のもとに常に最高を目指す。3. 必要なことを実践する。4. 協力・協働 5. 状況を肯定的に見つめ、幻想を抱くことなく理想を追い求めること。」と話していました。今でも尊敬してやまない篁一誠先生は、現場で直接自閉症の人達と接していて、もう何十年も自閉症を抱える家族と、全部そのまま家族ごと接し続けています。先生にはテクニク的な事もたくさん教わりましたが、一番心に残っているのは、継続していくことの重要性和、常に家族との協働作業であることを忘れていないこと、そして自閉症が好きなおことです。療育方法やスキルに違いがあっても、「自閉症が好きであり続けること」「一生かかっても分かりあう事の出来ないかもしれない自閉症の人達と、本気で分かり合おうとすること」を想い続けている、このような先輩たちをどこまでも追いかけていくことが、自閉症の人達の幸せに繋がるのだと思えます。

梅雨の季節に入り鬱陶しい天気が続いています。天気に左右される為、活動範囲が狭まったり急な予定変更も多くなったりしがちな季節です。自閉症圏の世界で生きている人達には直接経験が重要で、まだ起こってもいない未来を想像する事は苦手です。だからこそ、構造化を筆頭に自閉症理解に基づく支援、準備をしていながら、その大切な直接経験の場の不安を少しでも解消できるように、その活動に幸せを感じられる瞬間が少しでも増えるようにと思います。そんな、地域生活の拠点に短期入所棟を加えて、これからも自閉症に関係する人達との協働作業が出来たらと思います。(西村三郎)

ありがとうございました！！

春号で「毛糸」の募集を行ったところ、たくさんのご協力をいただきました。現在、自主制作品として、**アクリルタワシ・ペットボトルカバー・ストール**等へと生まれ変わり、好評をいただいております。本当にありがとうございました！！

ストッキングとタイツ募集！

今度は、「ストピカ」作製の為に、穴があいてしまったり古くなってもう使わなくなったストッキングや、タイツを募集します！

社会福祉法人風の谷 やまびこ工房

〒252-0244 相模原市中央区田名 7236-3

042-760-1033 担当:湯本まで



ついさっき、とって
きた野菜ですよ。

親しみやすい演奏
で会場を盛り上げ
てくれました。



よーし、今度こそ
ストライクだ！！

開場前からすごい行列！
準備いそいで！！

2010地域交流バザー

今年は晴天に恵まれ、真夏のような太陽が輝く一日となりました。開場前から入り口に行列ができるほどの盛況で、本当にたくさんの方々に来ていただきました。そして、あらためて私たちの地域の温かさを実感することができました。本当にありがとうございました。

今回は新たに子どもさん向けのビーズ工作体験コーナーを開設し、オリジナルのブレスレットを作っていました。早速腕に着けていかれる女の子、お母さんにプレゼントされる男の子など、初めての試みでしたが大人気コーナーとなりました。毎年ご好評をいただいている自主製作品コーナーにはアクリルタワシやペットボトルカバーが新製品として加わり、たくさんの方にお買い上げいただきました。

その他、野外に設置した模擬店では客足が途絶えず、例年より早く売り切れとなる店が多かったです。食堂ではドウ・シルフィードによるクラリネット三重奏を聴きながら、ご家族連れや旧交を温める輪があちこちにできていました。

それから最後になりましたが、炎天下の駐車場整理、野菜の収穫、急な買い出し等、ボランティアの皆さんには大変お世話になりました。これからも応援してくださる皆さんへの感謝を忘れず、さらにつながりを深めていきたいと思ひます。

手作り品コーナーでは、刺繍で模様をあしらったティッシュボックスがすぐに売り切れ。ポーチや新製品のアクリルたわしもたくさんお買い上げいただきました。



過去最高のお客さんの入りで、焼きそばコーナーに行列ができてしまいました。毎年鉄板を担当している二人もビックリ



掘り出し物を見つけて
くださいね～。

こども達のビーズ
工作体験コーナー
です、最初は遠慮が
ちでしたが、やり始
めると夢中になっ
ていましたよ。



自閉症について ～中学生に自閉症を理解してもらうためには？～

6月21日～23日、相模原市立大沢中2年生の男子生徒3名が職場体験に来ました。

学校側や生徒達の思いはそれぞれだったかと思いますが、受け入れる側としても、今後の仕事のイメージを膨らます材料になればという思いから始まり、自閉症を理解することが自己理解にもつながるはずだという思いを経て、身近にいる周りの人から理解されない発達にバラつきがあったりする方々の理解者になって欲しいなんていう思いにまで至り、期待？しすぎた面はあったかと思いますが、何よりも怪我なく無事に3日間過ごせ、やはり安堵したというのが本音です。

体験は利用者さんが実際に行っている受注の仕事をしてもらったり、自主製作品を作ったり、個々のスケジュール、様々な作業を見てもらったり、観察記録を書いてもらったりしました。自閉症についての説明を試みましたが、何かを説明すれば、一方が抜けた感じになり、間違ったことを伝えた気持ちになってしまうので、とりあえず、見てもらう、感じてもらうことを念頭に支援現場に入ってもらいました。そして感じたことを言語化してもらいました。最初に感じたことって、とっても大事に思います。

一日目：自閉症の印象はどんな感じですか？

- ・ ここに来る前は自閉症の人はどの人も同じような傾向があると思っていました。しかし、今日一日やってみると、この場所にいる人だけでも、色々な人がいて、パソコンで調べたりすると、自閉症という一つの事に全員の人がふくめられてしまうけど、実際はそうではなくて、その人にはその人の性格があって、その人にはその人の行動パターンや仕方があるんだなと思いました。
(相澤隼人)
- ・ 来る前は自閉症のことをよく知らなくてどう対応していいかわからなかったけど、今日、仕事をして思ったのは、人には個性があって、その個性をうまくつかって仕事をしていたのがすごいと思った。(西江口龍太)
- ・ 元気な人もいるし、真剣に仕事をしている人がいてなんかふつうに感じます。ペンさきを袋に入れる仕事で、30分で全部入れるのがすごいと思いました。(清水雄士)

二日目：利用者さんの気持ちになって思うことを挙げてください。

その利用者さんはどのように感じ、考えているとおもいますか？

- ・ 人それぞれで、「昼」と言うとはやく動く人もいれば、「バスがきた」と言うとはやく動く人もいるので、一人一人自分が楽しみにしている時のことを考えて、作業などをしていると思います。
(相澤)

最終日：将来の仕事のイメージは？今、思いつくことをあげてみましょう。

- ・ 休みの時だけでなく、仕事の中でも、人との交流ができるような仕事につきたいと思っています。
(相澤)
- ・ 小さい子とか好きだからできるだけ人間関係が多い仕事につきたいです。(西江口)
- ・ 動物とかを観察する仕事がしたいです。(清水)

最後に感想を聞いていた時、(利用者さんが)・・・人間として・・・という言葉が耳に残りました。人間として・・・です。自閉症者という一人の人から一人の人間としての姿を小さな社会であるやまびこ工房で見ての感想だと思います。自閉症理解を強調すると個性(人)にばかり注目しがちですが、その一方で人間(集団の中にいる人)であることは忘れてならないことに思います。人であることと人間であることのバランスをどうとるかが、自閉症者支援の課題なのだと思います。(薬師丸)

短期入所事業所「赤い屋根」開所!!



男性棟



廊下



リビング



居室

今年3月中旬からやまびこ工房横の新棟に短期入所事業所「赤い屋根」がオープンしました。今まで短期入所を行っていたQOL室を改修して女性専用のスペースとし、その開始が4月1日ですので正確に言うこの日が全体のオープン日となるのでしょうか。この「赤い屋根」は数ある候補の中から命名されたもので、文字通り新棟の平屋の屋根は赤いのです。QOL室の緑の扉を合わせて「赤い屋根と緑の扉」としたかったのですが「長すぎる」との判断からこの「赤い屋根」で統一されました。ただし下から屋根は見えないので、工房2階からこの「赤い屋根」をご確認下さい。



女性棟



リビング



和室



洋室

この「赤い屋根」の支援のコンセプトは“利用者の生活の幅を広げ、「自立」とQOLの向上に結びつける支援”というものです。漠然とした基本方針ですが、利用者本人にとって、自宅とは違う環境での生活体験の場でリフレッシュする良い機会にもなれば嬉しく思います。また保護者にとっても一息つくレスパイトの機会となり、明日からの生活の充電になればと願います。いずれにせよ、活動中は洗い物を手伝ったり食べた食器を自分で下げる等、日常生活の中で自分で出来ることを一つでも増やしていけたら（自立）という思いを持ちながら支援しています。

開始後既に3ヶ月が経過し日々の利用者数も増えてきました。開所日も月曜日から金曜日の朝までの未だヨチヨチ歩きの段階ですが、幸いにしてこの間大きな事故も無く運営出来ています。いずれは開所日週7日にすべく少しずつ着実に歩んでいきたいと考えています。

利用者枠は女性2名、男性6名の計8名です。現在の利用対象は工房利用者に限定していますが、いずれは工房以外の利用者も視野に入れていきます。女性棟の職員は1名で殆どマンツーマン対応ですが、フォローが必要な時はもう1名職員が入ります。男性棟も職員1名対応ですが、全体対応が難しい利用者が多いので、工房職員がフォローに入って2名で支援することもあります。

食事・掃除は、「企業組合ワーカーズコープ・キュービック」さんをお願いしています。やまびこ工房開所当初から昼食業務を委託しているので安心してお任せしています。前日使用した部屋、風呂場、トイレ等の掃除、工房の昼食の調理・配膳をしながら「赤い屋根」の夕食と翌日の朝食の準備と業務内容は多岐に渡り、今までに無かった業務も増え大変そうですが、お互いの情報交換を密にすることにより乗り切らせて下さっています。これまでの短期入所は利用者の楽しみな外食がメインだったので、負けない様にメニューも色々工夫して下さっています。リネン関係は「協和産業（株）」さんに委託し利用者毎に「シーツ・枕カバー・布団カバー」を交換し清潔を保っています。

色々な方の協力の下現在の「赤い屋根」は成立しています。やっと登り口に足を踏み入れましたが目指す頂は高いもので、担ぐシェルパの職員は未熟者です。ただ少しずつ着実に歩みを進めて、主人公である利用者と共に頂を見られたら…と願っています。

(上条)

後援会のページ

やまびこ工房地域交流バザーに参加して

去る6月6日に「やまびこ工房地域交流バザー」が開催されました。このバザーは文字どおり、やまびこ工房とその近隣地域の方々との交流を通じて、やまびこ工房や、その利用者（自閉症者）に関する理解を深めていただくため、毎年開催され好評を得ています。

当日は、好天にも恵まれ気温もかなり高くなりました。来場者も多く、おかげさまで冷たい飲み物や、焼きそば、うどん、味噌おでん、焼鳥、ソーセージ等の売り上げも好調で昼食時には行列もできる店もありました。また、洋服や雑貨の販売、近隣の農家の方が差し入れて下さった新鮮な野菜や、家族会の有志の方々が育てた植木や花の販売も楽しそうでした。こどもコーナーではペットボトルボーリングに興じる子ども達の笑顔が印象的でした。室内では、手工芸品の出来ばえに感心されていたお客さまも多く見られました。また、食堂で2回にわたり実施されたクラリネット演奏会も、多くの人達に、コーヒーを飲みながら楽しんでいただけたと思います。

本年3月に、やまびこ工房第2棟が完成し、短期入所事業、相談事業等、より充実した事業展開が期待されます。やまびこ工房が地域で果たしている役割の意義を近隣地域の方々に理解頂く良い機会として地域交流バザーが、これからも利用者のご家族や地域の方々に支持されることを願っています。

最後になりましたが、事前のバザー開催準備や当日お手伝いいただきました職員の皆様、家族会の皆様、ご協力ありがとうございました。
風の谷後援会会長 鈴木秀美

【更新・個人】平成22年1月19日～平成22年6月6日（敬称略）

（相模原市内）

井上響子 石崎守 大久保敬二 小川幸枝 小原マサエ 荻原常寿 川合義正 菊池みどり 小松克明 川島和章 小針徳枝
齋藤敦仁 佐藤しづ子 清水徹 鈴木秀美 鈴木フミ 高橋ユキ江 高田晋 豊田幸男 田中三郎 谷口博恵 永山明彦 芳賀道子
辺見祐二 堀田修司 政野大 政野光廣 松木千枝子 松原麻子 柳場秀雄 山崎テル代

（その他の地域）

竹花三枝 舟部光徳（町田市） 青山恵子 安藤紀子（横浜市） 田中ヒロ子 鶴田佳子（海老名市） 酒井艶子（川崎市）
新井靖数 藤野秀夫（厚木市） 上城洋一 中塚正彦（座間市） 浅羽昭子（横須賀市） 大久保秀俊（秦野市） 上城春子（福岡県）
田中正子（小郡市）

【更新・団体】

相模原市 やまびこ会 会長 鈴木秀美

【ご寄付・ご協力】

新宿自治会 新宿小学校 （有）伸和トラスト ボランティアサークルきずな ワーカーズコープ・キュービック やまびこ工房家族会
赤間芳子（社福）相模福祉村 清水紳一郎（社福）清水地域福祉奉仕会 田所昌訓（田名地区自治会連合会）

浅井彰宏 井上武 今関陽子 大崎元子 大関一代 小原マサエ 加藤泰久 金井静香 金子洋道 小松克明 佐藤辰男 齋藤美幸
島森隆夫 清水俊一 清水哲平 但野利行 椿憲雄 中村新 宮田勇 宮田加奈子 村岡三紀子 森谷俊子 山口和子 蘭ヒデコ

風の谷後援会

風の谷後援会のご案内

風の谷後援会は、自閉症者の自立と社会参加を目指す『社会福祉法人 風の谷』を支援することを目的にしております。主旨に御賛同頂き、皆様の温かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

一般会員 一口：3,000円/年間 **団体会員 一口：10,000円**

※一口以上、何口でも承ります。現金を添えてのお申し込みも承ります。

お問い合わせ先

〒252-0244 『風の谷後援会』事務局

相模原市中央区田名 7236-3 社会福祉法人「風の谷」内 TEL：042-760-1033 FAX：042-760-7115

郵便振込先 口座番号 00230-1-15345